

物語 『ふしぎな木の木の料理法』 <sup>み りょうりほう</sup>こそあどの森の物語シリーズ | <sup>かんめ</sup>巻目

<sup>おかだじゆん</sup>岡田 淳 / 作 <sup>りろんしゃ</sup>理論社

## 木の木の料理法を一緒に考えてみましょう



「この森でもなければ その森でもない あの森でもなければ  
どの森でもない」 こそあどの森でのお話です。

はずかしがり屋の男の子スキッパーの<sup>もと</sup>元に、ポアポアというふ  
しぎな<sup>かた</sup>固くてうす茶色の木の<sup>とど</sup>実が届きました。ところが、ポアポ  
アと<sup>いっしょ</sup>一緒に入っていた手紙がぬれてしまっていたので、手紙に書  
いてあったポアポアの<sup>りょうりほう</sup>料理法が読めなくなっていました。

そこで、スキッパーは、森に住む人達に、<sup>りょうりほう</sup>料理法を<sup>たず</sup>尋ねに行くことにしました。

おしゃべりが<sup>にがて</sup>苦手なスキッパーですが、<sup>たず</sup>上手く尋ねることができるのでしょうか？

さて、ポアポアの<sup>りょうりほう</sup>料理法は、<sup>や</sup>焼くのでしょうか？<sup>ゆ</sup>ゆでるのでしょうか？それとも、  
<sup>いっしょ</sup>たたく？みなさんも一緒に考えながら読むと楽しいですよ。

物語 『レンタルロボット』 <sup>たきいさちよ</sup>滝井幸代 / 作 <sup>み きけんじ</sup>三木謙次 / 絵 学研プラス

## 弟ロボットレンタルします

「ロボットかします」と書かれたレンタルショップをみつけた小学校4年生の<sup>けんた</sup>健太。  
弟がほしいと思っていた<sup>けんた</sup>健太は、弟ロボットにツトムという名前をつけてレンタルする  
ことにしました。

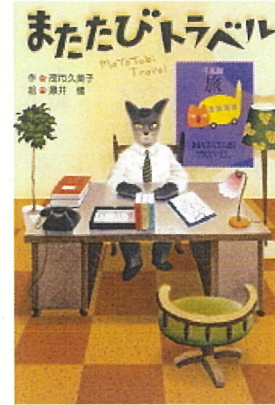
ツトムは、小学校1年生の元気で明るい子です。ずっと弟がほしかった<sup>けんた</sup>健太は、ツ  
トムと<sup>いっしょ</sup>一緒にすごせることが<sup>うれ</sup>嬉しくて、とてもかわいがってしまし  
た。でも、<sup>よ</sup>良いことばかりではありませんでした。いつも1人で  
<sup>すわ</sup>座っていたお母さんのひざの上を弟に取られてしまうし、<sup>りょうしん</sup>両親か  
ら、「お兄ちゃんなんだから」と、言われることが多くなり、<sup>がまん</sup>我慢  
することが<sup>ふ</sup>増えました…。

もし、みなさんが弟ロボットをレンタルしたら、<sup>なかよ</sup>仲良くするこ  
とはできるでしょうか？



物語 『またたびトラベル』 <sup>もいちくみこ</sup>茂一久美子 / 作 <sup>くろいけん</sup>黒井健 / 絵 学研プラス

## 幸せな旅をプレゼントします



<sup>めいろ</sup>迷路のような細い路地の奥にある小さな<sup>りょこうがいしゃ</sup>旅行会社またたびトラ  
ベル。ちょっと変わった<sup>りょこうがいしゃ</sup>旅行会社で、お客さんの行きたい場所  
ではなく、お客さんに合った場所に連れて行ってくれます。有名な  
<sup>かんこうち</sup>観光地やレストランには行けないけれど、<sup>なや</sup>悩みがある人の人生を  
か変えてしまうような一生心に<sup>のこ</sup>残る旅をプレゼントします。

またたびトラベルには、<sup>さまざま</sup>様々なお客さんがやってきます。自分に合っていないくつを  
はいているせいで腰を痛めている男性、月刊誌に載せる物語が思い浮かばない作家の女  
性、父から受け継いだレストランの<sup>しょうばい</sup>商売が上手いかない息子など、どの<sup>きやく</sup>お客さんも  
<sup>りょこう</sup>旅行に行けば、<sup>なや</sup>悩みが解決し、<sup>しあわ</sup>幸せになっていくようです。

物語 『忘れもの遊園地』 <sup>くめえみり</sup>久米絵美里 / 作 <sup>かわいみな</sup>かわいみな / 絵 アリス館

## 記憶について考えてみましょう

<sup>わす</sup>忘れものをして<sup>こま</sup>困っていた小学5年生のトラタとレミに、「忘れものですか？」と、  
<sup>か</sup>声を掛けてきたおじいさん。おじいさんは、<sup>わす</sup>忘れもの<sup>ゆうえんち</sup>遊園地の園長で、<sup>わす</sup>忘れものを<sup>わた</sup>渡す代  
わりに、タブレットに<sup>わす</sup>忘れたいことを1つ書き込み<sup>とうこう</sup>投稿してほしいと言います。投稿す  
ると、<sup>わす</sup>忘れたい嫌な<sup>いや</sup>記憶を<sup>わす</sup>忘れることができ、その<sup>きおく</sup>記憶が<sup>わす</sup>忘れもの<sup>ゆうえんち</sup>遊園地のエネルギー  
になるのだそうです。

ある日、レミのママが、<sup>わす</sup>忘れもの<sup>ゆうえんち</sup>遊園地に行ってしまったことを知り、レミとトラタ  
とトラタの姉ツバメの3人は、<sup>わす</sup>忘れもの<sup>ゆうえんち</sup>遊園地でママを探すことにな  
りました。忘れものでできたアトラクションを回りながら、ママを探  
しますが、園長は<sup>きおく</sup>記憶を<sup>わす</sup>忘れさせようとしています…。どうやら、トラタ  
とレミには、<sup>かこ</sup>過去に<sup>わす</sup>忘れてしまった<sup>つら</sup>辛い<sup>きおく</sup>記憶があるようです。

人の<sup>きおく</sup>記憶について考えさせられる物語です。

